

## 実態調査（その1）の結果

---

学校の被災状況  
避難所開設状況  
震災直後の保健室状況  
記録状況の分類  
被災直後の保健室の様子  
保健室被災状況  
保健室室内被災状況  
保健室の防災・耐震  
記録の中にあった被害物品  
まとめ

平成 23 年度 定期健康診断の実施状況  
発育測定  
実施状況  
実施上で困ったこと  
学校医検診  
実施状況  
実施上で困ったこと  
事後措置  
実施状況  
実施上で困ったこと

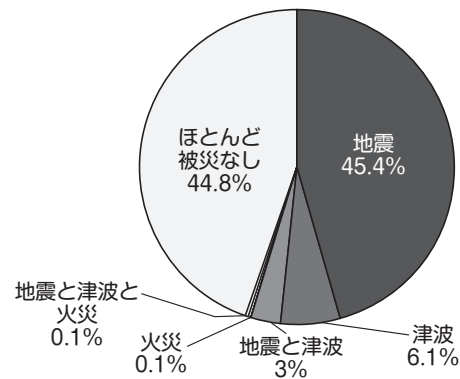
東日本大震災で健康診断以外で苦労したこと  
東日本大震災を経て今後役に立てたいこと

## 実態調査(その1)の結果

### 1-1 学校の被災状況

本アンケートでは、「被災した」を、「昨年度までと同じ通常の教育活動のできない程度」と定義し、被災の内容を「地震」、「津波」、「地震と津波」、「火災」、「地震と津波と火災」、「ほとんど被災なし」の項目に分類した上で回答してもらった。被災に関する記入のあった707校のうち、「被災した」と回答した学校は390校で(55.2%)であった。被災の内容を分類すると、図1のようになる。

図1 被災の内容



「地震」による被災は321校(45.4%)。「津波」による被災は43校(6.1%)。「地震と津波」による被災は24校(3.4%)。「火災」による被災は、1校(0.1%)。「地震と津波火災による被災」は1校の(0.1%)となっていた。「津波」により被災した学校は(9.6%)となる。

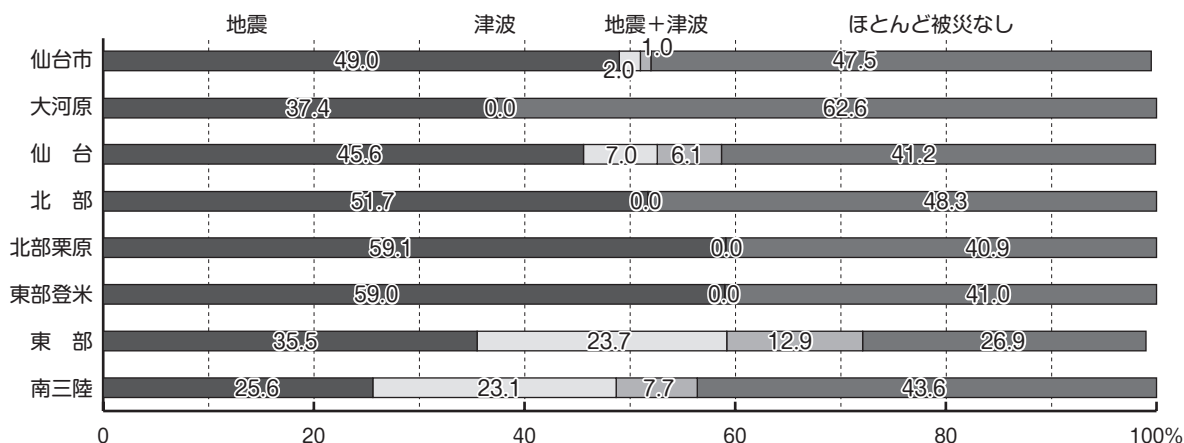
昨年度までと同じ通常の教育活動ができた学校「ほとんど被災なし」は、317校(44.8%)であった。

図2は、「教育事務所」ごとの「被災状況」である。「大河原」教育事務所管内では、37.4%の被災率だったが、その他の地区では被災率が50%を超えていた。震度7を記録した「栗原」とその近くの「東部登米」教育事務所管内では、「地震」による被災が約60%となっていた。それに加え沿岸部に学校があった、「南三陸」・「東部」・「仙台」教育事務所管内と「仙台市」には、「津波」による被害が加わった。「地震」による揺れに「津波」による被災が加わり、宮城県内の広範囲の地区で被災率が高くなってしまったことが分かる。

表1-1 各教育事務所の被災状況(校) ※高校・特別支援学校を各地区に含む N=707

地区	地震	津波	火災	地震+津波	地震+津波+火災	ほとんど被災なし
仙台市	98	4	1	2	0	95
大河原	34	0	0	0	0	57
仙台	52	8	0	7	0	47
北部	45	0	0	0	0	42
北部栗原	26	0	0	0	0	18
東部登米	23	0	0	0	0	16
東部	33	22	0	12	1	25
南三陸	10	9	0	3	0	17

図2 各教育事務所の被災状況 (\*「火災」は「仙台市」・「東部」に1校ずつ記入あり)



## 1-2 避難所開設状況

震災により「避難所を開設した学校」は、図3のとおり370校（52.1%）で、半数を超えていた。図2において「ほとんど被災なし」の学校が340校（44.8%）であったことから、「被災あり」の学校でも避難所を開設していたことになる。

「避難所を開設した学校」を「校種別」にすると図4のとおりで、「小学校」の開設が55.9%で圧倒的に多かったことが分かる。

図3 避難所開設状況

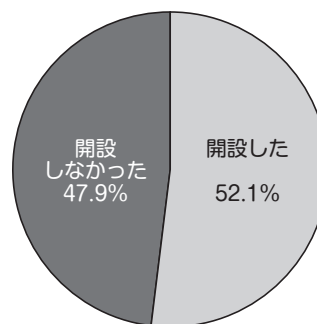
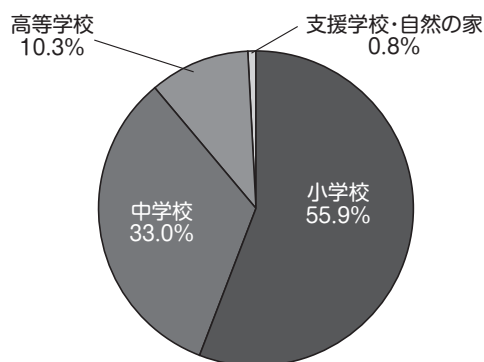


表1-2(1) 校種別避難所開設割合(校) N=370

校種別	校数
小学校	207
中学校	122
高等学校	38
支援学校・自然の家	3

図4 校種別避難所開設割合



さらに、「校種別」に「避難所開設率」を調べたところ、図5のように「中学校」の開設率が60.1%となっていて一番高くなっていた。「小学校」の開設率は、54.2%。「高等学校」は36.5%。「支援学校・自然の家」では、14.3%であった。

図5 校種別避難所開設率

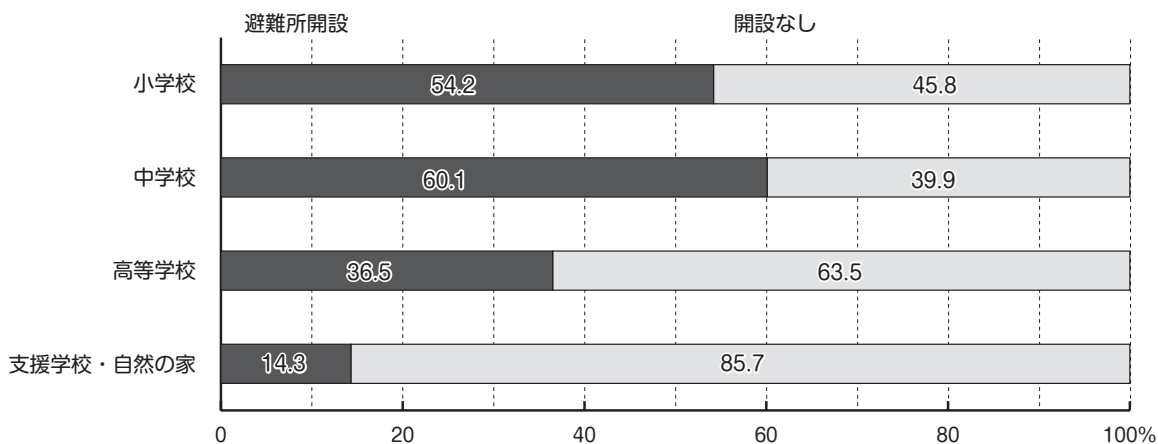


表1-2 (2) 各教育事務所ごとの避難所開設状況(高校・特別支援学校を含む)(校)

	開設した	開設しなかった
仙台市	147	53
大河原	18	73
仙台	76	40
北部	22	65
北部栗原	4	40
東部登米	8	31
東部	71	23
南三陸	24	15

受けた地区と同じであることが分かった。特に、「東部」では、「ほとんど被災なし」の学校が26.9%であったのに対して、「避難所の開設率」が75.5%となっていた。「地震」や「津波」の被害を受け、学校の復旧を中心とした運営を迫られていた状況でも、その地区に被災した学校にやむを得ず身を寄せなければならなかった人達が多く、その避難者を支援していた状況であった。

図7は、避難所開設状況別の被災状況である。「避難所を開設しなかった学校」と「避難所を開設した学校」の被災の内容を比較すると、その比はほぼ似ている状況だった。被災率は、「避難所を開設した学校」が59.7%が高かったことが分かる。「地震」で被災した144校で、また、「津波」で被災した20校、「火災」、「地震+津波」、「地震+津波+火災」で被災していた7校、合計171校が被災した中での避難所開設となっていた。このような状態の学校に、地域の方々には身を寄せなければならなかった。

「避難所を開設していなかった学校」では、50.3%が「被災した」と回答したが、これらの学校の中には、被災状況がひどく避難所として十分な機能を果たせなかった学校が入る。また、「ほとんど被災なし」の学校が49.7%あったが、この値には被災がほとんどない地域の学校で、避難所を開設する必要のなかった学校も含まれている。

表表1-2 (3) 避難所開設状況別の被災状況(校)

N=707

	地震	津波	火災	地震+津波	地震+津波+火災	ほとんど被災なし	合計
開設した	177	23	0	19	0	148	367
開設しなかった	144	20	1	5	1	169	340

図7 避難所開設状況別の被災状況

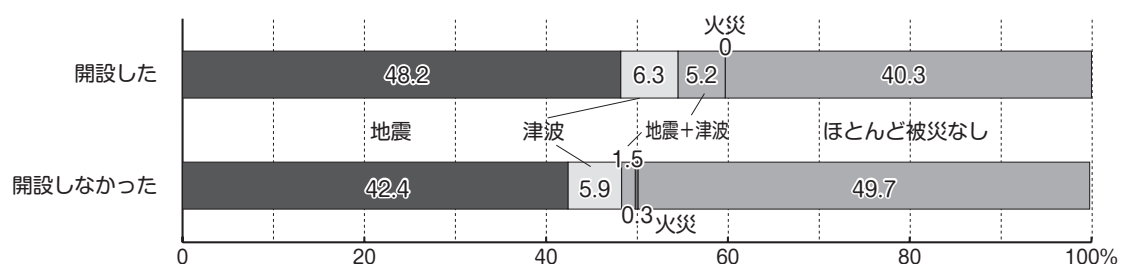
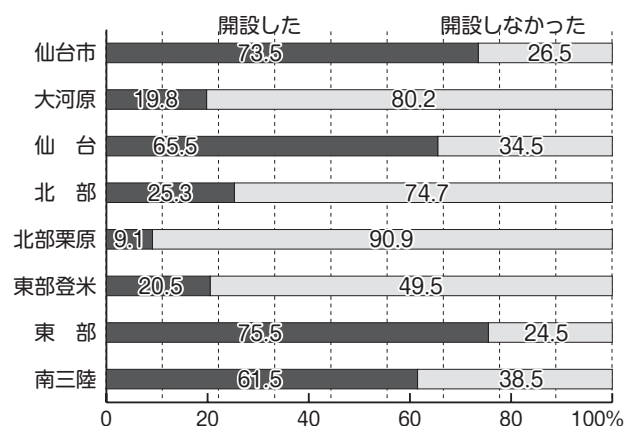


図6は、「各教育事務所ごとの避難所開設状況」である。「仙台市」・「仙台」・「東部」・「南三陸」教育事務所管内の学校の避難所開設率が60%を超えていて、高かったことが分かる。特に「東部」教育事務所管内では、75.5%。仙台市では、73.5%と70%を上回って大変高い避難所開設率となっていた。

図6と図2の各教育事務所の被災状況で、「ほとんど被災なしの学校の率」と「避難所開設率」を比べたところ、「避難所開設率」の方が高かった地区は、「南三陸」・「東部」・「仙台」と「仙台市」で、「津波」を

図6 各教育事務所ごとの避難所開設状況



### 参考 その1 アンケート回収状況

アンケートは、会員の所属する学校の780校に配布し、711校分を回収した。回収率は91.2%であった。教育事務所別回収状況は下の2つの表のとおりである。また、アンケートの「校種別」回収状況は、参考図のとおりであった。

表1 アンケート(その1)各教育事務所・高等学校・特別支援学校の10のグループ別回収状況(校)

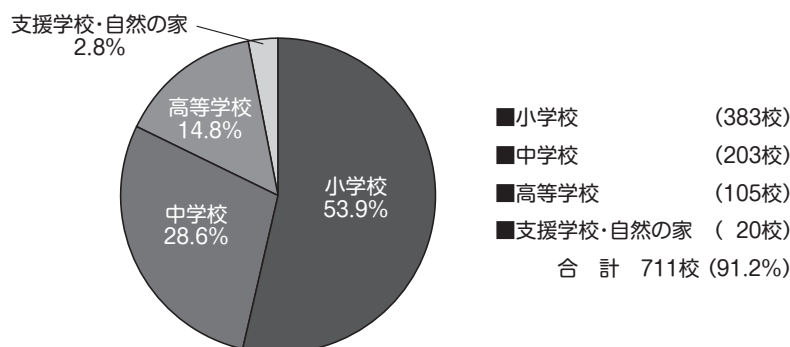
N=711

教育事務所	配布数	回収数			
		小	中	回収計	回収率
仙台市教育委員会	194	96	64	160	82.5%
大河原教育事務所	77	49	26	75	97.4%
仙台教育事務所	108	64	36	100	92.6%
北部教育事務所	75	50	20	70	93.3%
東部栗原教育事務所	39	28	10	38	97.4%
東部登米教育事務所	32	22	10	32	100.0%
東部教育事務所	83	56	25	81	97.6%
南三陸教育事務所	42	18	12	30	71.4%
高等学校	107	-	-	105	98.1%
特別支援・自然の家	23	-	-	20	87.0%
合計	780	383	203	711	91.2%

表2 アンケート(その1)高校・特別支援学校を各教育事務所を含む8つのグループ別回収状況(校)

地区	校種別				記入計
	小学校数	中学校数	高校数	支援学校・自然の家	
仙台市教育委員会	96	64	35	5	200
大河原教育事務所	49	26	12	4	91
仙台教育事務所	64	36	12	4	116
北部教育事務所	50	20	12	3	85
東部栗原教育事務所	28	10	5	1	44
東部登米教育事務所	22	10	9	1	42
東部教育事務所	56	25	12	1	94
南三陸教育事務所	18	12	8	1	39
合計	383	203	105	20	711

参考図 アンケート校種別回収状況



### 1-3 震災直後の保健室の状況

#### 1-3-1 回答状況の分類

「震災直後の保健室の状況を御記入ください。」という質問に対する回答は多様であった。アンケートを作成した時点で、「曖昧な質問」をしたことによるものと反省した。しかし、大震災のスケールの大きさを目の当たりにする結果でもあった。

寄せられた多様な回答は図8のようなグループに分けられた。各グループ分けについて説明したい。

##### (1) 被災直後の保健室の様子 (1-3-2 に掲載)

「震災直後の保健室の様子」として質問したが、回答の中には、「保健室の様子」の他に「避難所や救護体制がどのように行われたのか」や「児童生徒がどのようにしていたか」という内容の記録もみられた。そこで、「保健室被災状況」、主に「避難所・避難者・救急体制」、主に「児童・生徒の様子」、「異動で分からない」、「記入なし」の5項目に分けた。

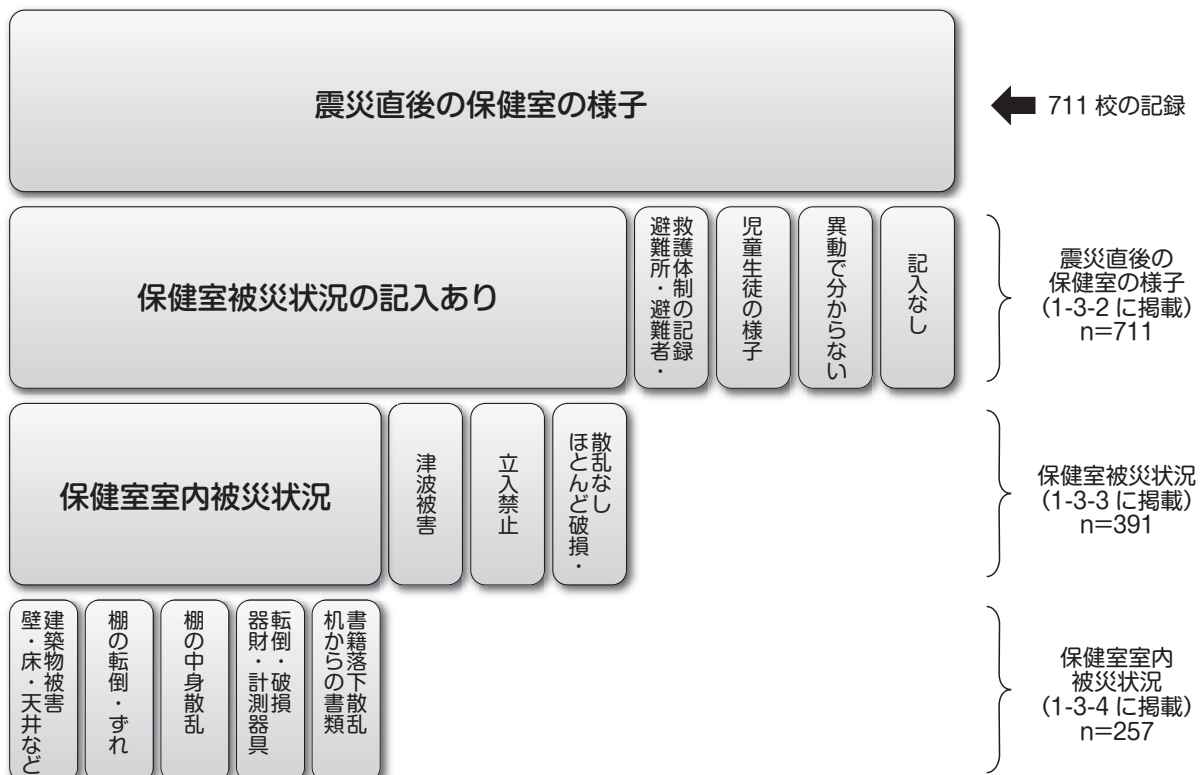
##### (2) 保健室被災状況 (1-3-3 に掲載)

「保健室被災状況」の中にはさらに、「保健室室内被災」の他に「立入禁止となった」、「津波被害にあった」という内容がグループ化された。そこで、「保健室被災状況」として、「保健室室内被災状況」、「津波被害」、「立入禁止」、「ほとんど破損・散乱なし」の4項目にグループ化した。

##### (3) 保健室室内被災状況 (1-3-3 に掲載)

「保健室室内被災状況」として記録された内容も多様であった。これらを「壁・床・天井等建築被害」、「棚の倒壊・ずれ」、「棚の中身散乱」、「器材・計測器転倒破壊」、「机から書籍書類等の落下・散乱」の5項目に分類した。

図8 震災直後の保健室の様子回答状況と結果の掲載場所





(4) 各グループの優先順位

保健室の被災状況を把握しなかったため、(1)の被災直後の保健室の様子で「保健室の被災」と他の項目が複数記録されていた場合は、「保健室の被災状況」を最優先としてカウントした。また、「避難所・避難者・救急体制」と「児童・生徒の様子」の項目が複合されていた場合は、内容が多くあるいは強い意味合いで記録されている方をカウントした。(2)においても複合記録が見られたが、「津波被害」や「立入禁止」が複合されている場合は、「津波被害」や「立入禁止」を優先にしてカウントした。(3)にも複数回答がみられたが(3)は記入された項目をすべてカウントした。

(5) 分類例

仙台市小学校の記録に次のようなものがあった。

[体調不良の2人の児童がベッドで休んでいた。揺れがおさまるのを待ち、廊下で泣いていた女児2人も一緒に校庭へ避難した。保健室では本棚から本が落ち、壁にひびが入った。]

(仙台市 小学校の記録)

この記録から、カウントされたものは、2点である。

保健室では本棚から本が落ち・・・「棚の中身散乱」のカウント1

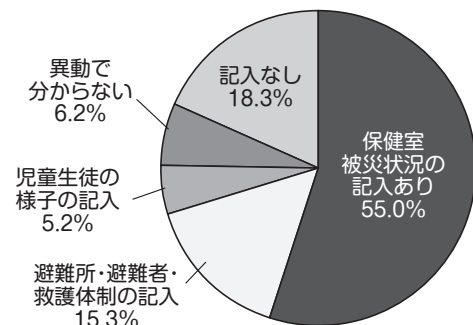
壁にひびが入った・・・「壁・床・天井等建築被害」のカウント1

■ 1-3-2 被災直後の保健室の様子

アンケートを作成した段階では、「保健室の被災状況」、「異動でわからない」、「記入なし」の分類ができるだろうと考えていて、「避難所・避難者・救急体制」、「児童・生徒の様子」に関する返答があるとは考えていなかった。

しかし震災の被害が大きかったことから、その直後養護教諭の目は、「人命救助」へも視点が向けられていた。「保健室の状況」よりも優先しなければならないことがあった緊急性が伝わってくる結果でもあるとも言える。図9のとおりおよそ20%が、避難所や児童生徒の様子が優先された記入であった。

図9 震災直後の保健室の様子(宮城県全体)



「避難所・避難者・救急体制」に関する回答には、次のようなものがあった。(地区 学校種)

- (1)「11日、夜より避難所となり、入浴の控え室、食事運搬の通路、診療室等多目的に使用された。救急薬品は職員室に移動し、養護教諭が応急処置にあたった。」(仙台 中学校)
- (2)「救護所となり、医療団が派遣されるまでの1週間は救護にかかわった。学校再開するまでの間は、保健室は救護所となった。」(東部 小学校)
- (3)「医務室となった。被災地からDr.ヘリで大学病院搬送後本校保健室に再度搬送され管理校医(内科)による往診を受けた。」(仙台市 中学校)
- (4)「避難所となり、避難してきた人が使用したり、物品置き場などになったりした。」(北部 小学校)
- (5)「体育館が避難所になり、保健室の布団・マットレス・バスタオル・タオル・救急箱等をすべて体育館に移動して利用した。」(南三陸 中学校)
- (6)「服のぬれた方やケガをした方、また薬がほしい方などで、いっぱいでした。」(仙台 小学校)
- (7)「津波から救い出された人やがれき等による挫創、低体温の高齢者等、小さい野戦病院のようだった。」(東部 高等学校)

「震災直後」の保健室は、大変な様変わりをしていた。保健室が、「救護室」、「医務室」、「本部」、「職員の宿泊所」、「物品置き場」、「児童の引き渡し場所」また、一時「遺体安置場所」となったという回答もあった。保健室以外で避難所の救護体制を行った場合でも、保健室の寝具、衛生材料等を必死に運び出していた状態であっ

た。学校のあらゆる場所が多目的に活用されたが、保健室もその一つであった。

また、「児童生徒の様子」に関する回答には、次のものがあった。(地区 学校種)

- (1)「恐怖心の強い子どもへの声がけと観察など、メンタル面での配慮を心がけた。」(北部 小学校)
- (2)「震災時保健室にはいなかった。清掃指導中で本校舎隣の木造校舎にいて、子ども達の安全を確認し、避難誘導した。」(仙台 小学校)
- (3)「当日は卒業式で1,2年生は帰宅していた。3年生は保護者と謝恩会に出席中。直ちに校庭に避難し、保護者と帰宅。保健室には誰もいなくカギがかかっていた。」(仙台 中学校)
- (4)「児童生徒は下校のスクールバスの中で地震に遭い、そのまま家庭に帰りました。」(北部栗原 支援学校)
- (5)「教員の誘導に落ち着いて、生徒は避難し、けが人もなく、良かった。」(仙台市 高等学校)
- (6)「パニックや眠れないなどの症状で不安定な子が多く、保健室で休養をとらせたりしました。」(東部登米 支援学校)
- (7)「6年生と先生方の卒業前レクリエーションが開始する直前だったため保健室に児童はいませんでした。」(大河原 小学校)

これらの記録から、養護教諭は、突然の災害の中で児童生徒の安全を確保するとともに非常時にあっても、日頃の実践と同じように「震災直後」の児童生徒の心身の健康を観察し必要に応じ声かけし休養させ回復させることに全力をそそいでいたことがわかる。

震災直後の保健室の様子を教育事務所ごと5つの状況を見てみると図10のようになる。

南三陸や東部の学校では、「記入なし」が多いが、状況を記入することが、いろいろな面で困難であったことによると思われる。

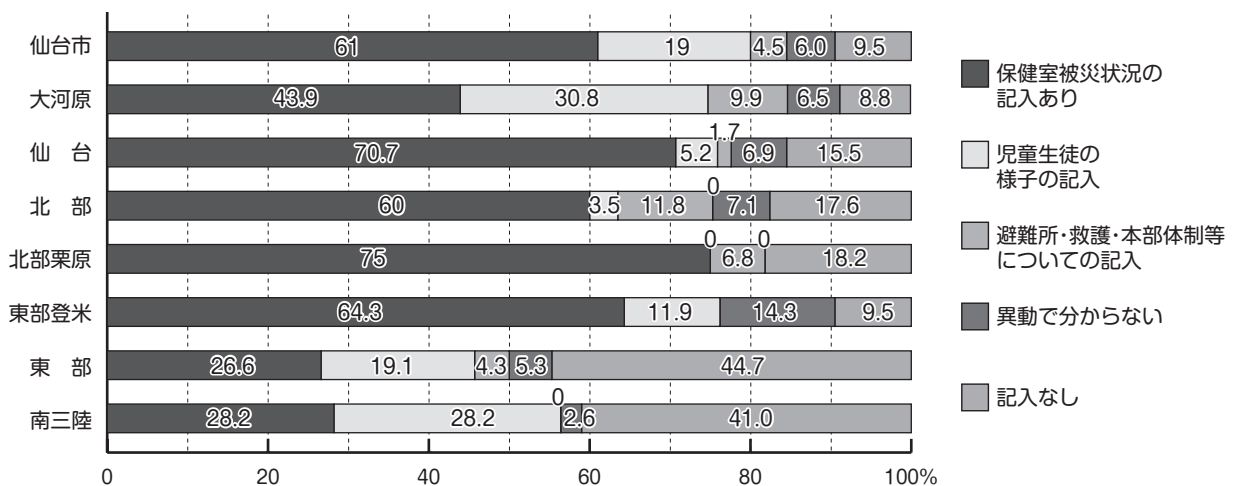
また、避難所についての記入が、南三陸、東部、仙台、仙台市で多くなっていた。これは、避難所開設率に比例しているところである。

表1-3-2 震災直後の保健室の様子(高校、特別支援学校を各地区に含む)(校)

N=711

	保健室被災状況の記入	避難所・避難者・救護体制	児童生徒の様子	異動で分からない	記入なし	アンケート回収合計
仙台市	122	38	9	12	19	200
大河原	40	28	9	6	8	91
仙台	82	6	2	8	18	116
北部	51	3	10	6	15	85
北部栗原	33	0	3	0	8	44
東部登米	27	5	0	6	4	42
東部	25	18	4	5	42	94
南三陸	11	11	0	1	16	39
合計	391	109	37	44	130	711

図10 震災直後の保健室の様子(教育事務所ごと)





### 1-3-3 保健室被災状況

「保健室の被害」については391校(全体の55%)の記録があった。それらは、「保健室室内被災」、「津波被害」、「立入禁止」、「ほとんど破損・散乱なし」の4項目に分けられた。「ほとんど破損・散乱なし」であった学校は83校で、保健室の被害に記録があった391校の中(図11)では、21.2%、アンケートの総数711校においては、11.7%となる。

アンケート内で「立入禁止」の記録をしていた学校は、17校。「津波の被害」についての記録は34校あった。その状況は、いずれも悲惨で、その後、間借り校舎での学習や、仮設校舎での生活を余儀なくされている。

図12を見ると「ほとんど破損・散乱なし」は東部登米、大河原、仙台教育事務所にやや多くなっていた。

「津波被害」は、東部、南三陸、仙台教育事務所に多かった。

「立入禁止」の学校の様子として、次のような回答があった。

- (1) 黒板が落ちたためほぼ立入禁止(仙台 小学校)
- (2) 地震で壁が落ち、使用できなくなった。保健室のものを避難所で使用した。(仙台 中学校)
- (3) 本震後は校舎内の一部のみ使用不可だったが、4月の余震で校舎全体が使用できなくなり、保健室も使えなくなった。(北部栗原 小学校)
- (4) 壁のひび、落下物があり、建物全体が危険なため使用不可。(仙台市 小学校)
- (5) 保健室のある校舎が大きな被害を受けたため、生徒登校日まで使用不可、避難者は新校舎のみ収容。(仙台市 高等学校)  
また、「津波被害」を受けた学校の回答には次のようなものがあった。
- (1) 津波で全て流出し、がれきでいっぱい、使用できる状況ではなかった。(仙台市 小学校)
- (2) 1階部分は全て津波で流出したため、保健室も全て流出しました。(仙台 高等学校)
- (3) 1階に保健室があった。津波は1階の天井まで達し、津波がひいた1階は押し寄せたがれきで足の踏み場もなく、括り付けの棚も壁からはがれ、倒れていた状態だった。(東部 小学校)
- (4) 保健室は1階にあるため、津波による浸水で使用できなかった。学校近くで開業している医師も避難してきたため、使用できる衛生材料や医薬品を使用して、教室1室を救護所にして、対応できるものについては対応した。(東部 高等学校)
- (5) 津波による浸水のため、ヘドロが床や、机、棚など汚し、物も色々な場所に移動していた。見つかった物もあるが(南三陸 小学校)

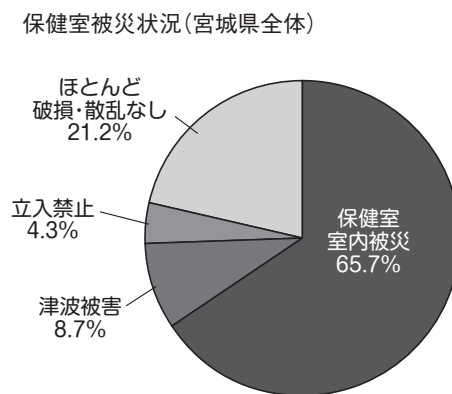
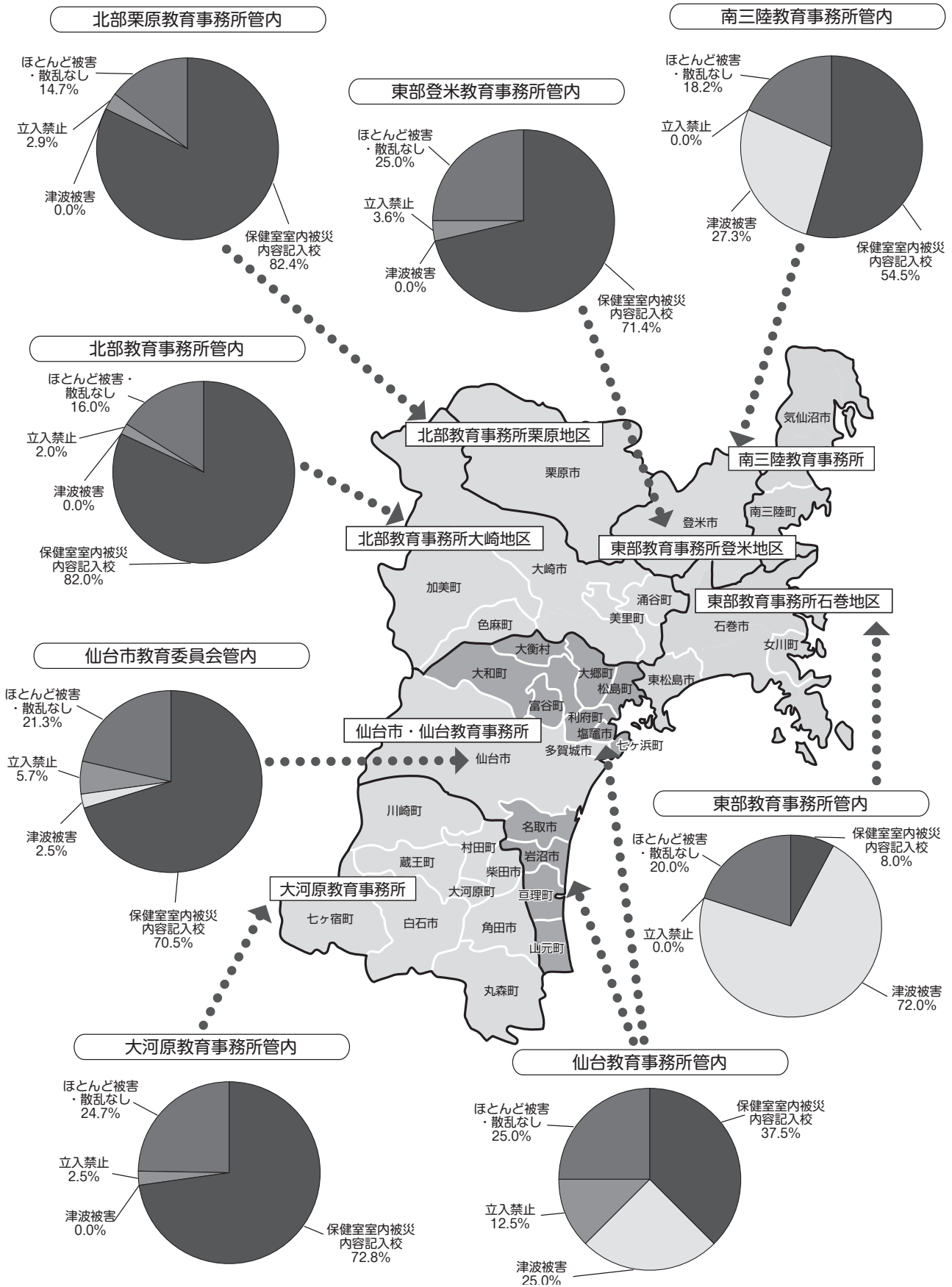


表1-3-3 保健室被災状況の記入あり校数(高校、特別支援学校を各地区に含む)(校)

N=391

	保健室室内被災の記入校	津波被害	立入禁止	ほとんど被害・散乱なし	合計
仙台市	86	3	7	26	122
大河原	59	0	2	20	81
仙台	15	10	5	10	40
北部	41	0	1	8	50
北部栗原	28	0	1	5	34
東部登米	20	0	1	7	28
東部	2	18	0	5	25
南三陸	6	3	0	2	11
合計	257	34	17	83	391

図12 各教育事務所管内の保健室被災状況



### 1-3-4 保健室室内被災状況

回答のあった257校の保健室室内被災内容を、「壁・床・天井等建築被害」、「棚の倒壊・ずれ」、「棚の中身散乱」、「器材・計測器転倒破壊」、「机から書籍書類等の落下・散乱」の5項目に分類した。

複数回答が多かったが、それらの全てをピックアップし5項目に分類した。結果は、図13と図14のとおりであった。368個の回答の中で「棚の倒壊・ずれ」の回答が101あり、一番多くあがっていた。

「転倒防止対策をしていたため、書棚・薬品庫等は倒れはしなかったが物は散乱した。」(北部 高等学校)のように、転倒防止対策が効果を上げたという記録が多かった。しかし、「物が落ちることはなかったが、耐震のための補強材がゆがんだ。」(東部登米 小学校)や「耐震のための金具がはずれ、薬品棚が裏返っていた。棚や机上の書類が床に散乱し、足の踏み場もない状態だった。」(仙台市 中学校)というような記録もあった。

図13 保健室室内被災状況(宮城県全体)

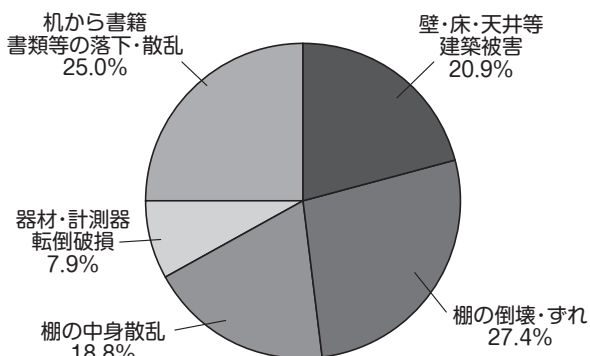


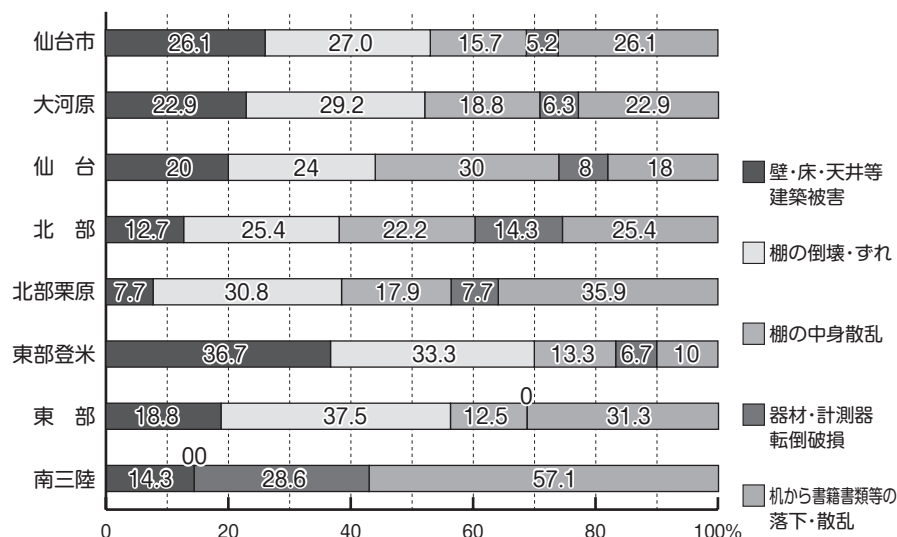
表1-3-4 保健室室内被災状況(高校・特別支援学校を各地区に含む)(個)

複数回答あり

地区	壁・床・天井等建築被害	棚の倒壊・ずれ	棚の中身散乱	器材・計測器転倒破壊	机から書籍書類等の落下・散乱	合計
仙台市	30	31	18	6	30	115
大河原	11	14	9	3	11	48
仙台	10	12	15	4	9	50
北部	8	16	14	9	16	63
北部栗原	3	12	7	3	14	39
東部登米	11	10	4	2	3	30
東部	3	6	2	0	5	16
南三陸	1	0	0	2	4	7
合計	77	101	69	29	92	368

図14 保健室室内被災状況(教育事務所ごと)

また、東部小学校の回答に、「1階と2階の間まで津波がきたため、保健室内は全て水没した。壁、流し、冷蔵庫など全て流出した。壁に取り付けてあった戸棚が残っていたが中に入っていた書類は全てどろと海水にまみれていた。」という記録があった。壁に取り付けてあった戸棚が津波の中でも残ったという貴重な記録である。



### 1-3-5 保健室被災状況の紹介

各教育事務所ごとの回答内容を紹介します。今後の保健室防災・減災・耐震の参考にさせていただきたい。

(地区 校種)

- 事務機の引き出しが、飛び出ていた。鉢類が落下し、床が土だらけになった。書棚等の転倒はなかった。(栗原 小学校)
- 薬品庫、書棚などが倒れ、中の物品があふれ出し、足の踏み場もなかった。すぐには使用できなかった。(栗原 中学校)
- めちゃめちゃの一言(震度7です)。棚は落下、ファイルはバラバラ落下。壁にひびわれ発生。入試業務のため生徒0だったのが幸いです。(栗原 高校)

- 事務機や健康診断器具(視力計、身長計など)の固定していなかったものが、全て動いた。そのため復旧するまでは使用可能と言える状況ではなかった。(東部登米 小学校)
- 備品で壊れた物はなかったが、校舎が古いため保健室の壁にヒビが入った。(東部登米 中学校)
- 観葉植物の鉢などの破損、天井ひび割れ。(東部登米 高校)

- 学校から200mの所まで津波が来た。被災した約350名の方がすぐ、本校に避難してきた。体育館は、ガラスの破片等でいっぱいだったため、1階の8教室を開放した。保健室には、骨折や低体温等の重傷者20名をベッド及び床に休ませ、2日間、手当や介護に当たった。震災2日後に市の保健師1名と看護師1名が派遣され、計3名で350名の支援に当たった。寝る時間とスペースはなかった。(南三陸 小学校)
- すべて流出(南三陸 中学校)

- 棚に置いてあったもの全て落下。収納庫、整理戸棚、冷蔵庫、洗濯機、ベッド等。全て移動し、引き出しはとび出し、戸も開き中のものが散乱してしまいました。(北部 小学校)
- 医薬品を入れている棚は震災に備えて固定していたので倒れることはなかった。テーブル等の上に置いていたものが落下した程度で片付けをすれば保健室は使える状況だった。(北部 中学校)



- 地震により書棚等が倒れ、その後津波により水没。備品、教材、仕事道具、私物を含む全て流出しました。(東部 小学校)
- 戸棚の中のもの、薬品、本、器具等戸が開き、すべて落下。冷蔵庫は倒れ、床に傷がついた。しかし、ワゴン、視力計、体重計は(車輪があるもの)倒れず、移動だけですんだ。(東部 小学校)
- 廊下側出入口のドアが倒れ、ガラスが割れた。卒業式準備を終えた生徒が3名、入室しており、作業テーブルの下にもぐらせた。冷蔵庫、テレビ、棚が激しく揺れ、5mくらいずれた。本棚から本が散乱した。津波で1m50cmくらい浸水し、2週間近く水がひかなかった。布団収納庫も倒れ、冷蔵庫は逆さまの状態。保健室中央に移動していた。ヘッド、重油が流れ込み、カラーボックスも廊下に流出していた。薬品棚上部に置いていた衛生材料等は、使えるものがたくさんあり、避難所運営に役立った。(東部 中学校)

- 保健室を一部分見えないように天井につかえ棒でおさえていた仕切り戸があったのが、倒れて、さらに端にあったロッカーが倒れ(止め金なかった)、おさまったときはもうぐちゃぐちゃでした。外側(上)のガラスも一部こわれおちてきました。4月7日には3月11日のときと揺れ方が違ったので、ロッカー戸棚が3月11日のとき、倒れないのが倒れてしまいました。またこのときにパソコンの印刷機がびっくりかえり破損になりました。(仙台市 小学校)
- 書類やロッカー類が大幅に散乱。薬品を入れていたロッカーの鍵が開かなくなった。壊して薬品類を出して使用した。(仙台市 中学校)
- 薬品庫が転倒し、床一面薬品による汚れと臭いが強くなった。(仙台市 特別支援)

- 固定していなかったキャスター付きの薬品棚が床をすべり大きく移動した。本棚から本が落下し散乱した。他の家具は少し移動した程度。(大河原 小学校)
- 震災の影響で校舎が使えなくなり(職員室や保健室がある管理棟、体育館は無事でした)丸森町内にある中学校の校舎の空き教室を間借りして、今は教育活動を行なっています。(大河原 中学校)
- 固定していない本棚が倒れたり、移動した。ドアの傍に生徒用机の上においていたオートクレーブが落下して飛び、ドアを塞いだ。机上の本棚が落下した。その他机や本棚が数センチ移動した。壁に小さな亀裂が入った。断水が続いた。また水道管の破損により数ヶ月間水道水に砂が混じた。(大河原 高校)

- 地震でつい立てや視力計等倒れた。その後津波で保健室内のものはほぼすべて流出。USB等も流出しデータ等なし。(仙台 小学校)
- 薬品庫が倒れたり、ついたてが倒れたり、足の踏み場がない状態だった。その後、水没したため、汚泥で大変な状況。(仙台 中学校)
- 本棚などからたくさんのもものが落下して足の踏み場もなかった。また身を守るための避難する場がないことに気づいた。(仙台 中学校)